

B—41 サイケ調染色布に於ける配色論的考察

中国短大家政 ○平田 定子
小原 敏子

1. 近年服地に於ける流行色は極めてフルカラーな傾向を示し、特にサイケ調と云われる流行がその頂点に達している感がある。化学染料の発達とあいまって極めて染度の高い様相を示して来た。このような傾向に対して配色論的立場からその実体を把握し、合わせて消費対象年令層に於てその傾向性の好意度が、いかなる傾向をもったか調査することによって、メーカーの配色的傾向と、当該消費対象者の好意との相対的關係を調べ、今後の配色傾向の方向性を呈示して見ようとした。

2. (1) 各メーカー 150 銘柄に対しプリント布標本を整理。

(2) マンセル色表を使用し、標本の色彩使用傾向を分析し、色彩使用傾向性頻度表を作制。頻度表により各種配色論を基準にして、配色傾向表を作制。

(3) S. D. 方式によって短大生1000人に対し標本提示により嗜好度を調査。

(4) 嗜好頻度表と配色傾向表を対照させ好意順列を設定。

3. 調和色の好意度は今迄予想もされなかったほど広範囲になり、そして今やムーンとスペンサー等の配色論に現われた調和色の限界値をこえる傾向があるために、調和論の限界値を拡げて解釈してゆかなければならないと思われる。